

◇西小はやしの会(玉造)が 春季善行表彰を受賞

西小はやしの会(高野貫一会長
会員数28名)が平成20年度春季善
行表彰を受け、5月24日明治神宮に
おいて表彰式が行われました。

西小はやしの会では、施設の慰
問や市内外の文化活動への参加を
積極的に行っています。

特に、特別養護老人ホームナザ
レ園(那珂市)を毎年1月に慰問
し、子どもたちのお囃子やかめ・
ひよつとこ踊りを披露する活動を
27年間続けてきました。



◇厚生労働大臣賞受賞

この度、伊藤正孝さんが厚生労働大臣賞を受賞されました。

伊藤さんは、昭和58年に北浦村民生委員児童委員に就任され、以来25年にわたり、地域福祉の向上に尽力された功績が認められたもので、6月4日、坂本市長から伝達されました。

西小はやしの会とは・・・

昭和53年、伝統文化の継承と子どもたちの健全育成を目的に、旧玉造町で小学校へお囃子の道具一式を配置したことをきっかけに取組みを始めました。今年8月には30周年を迎え、親子2代で参加をしている子どもたちもいます。

浜地区は、江戸時代は水戸藩領でした。「孝子弥作」という母一人子一人で病弱な母を支えていた親孝行な青年に、水戸光圀が恩賞を授けて励ましたという歴史のある地です。

このような伝統が今も受け継がれ、西小はやしの会では毎年9月に、地元学区内のお年寄りを招待し、親子で手作りの料理やお囃子やかめ・ひよつとこ踊りでもてなしています。

5月22日、行方市消費者友の会(小沢輝子会長、会員数96名)の総会が稲敷市ポテIRONの森において行われました。

本会は、平成19年度に消費者団体を統合し設立され、会員相互の一体化を図りながら活動を行ってきました。

総会では、平成19年度に実施された講演会、消費生活展、移動研修会等の事業の報告と、消費者の安心で安全な暮らしを守るための平成20年度事業計画が決定されました。

総会の後、独立行政法人食品総合研究所(つくば市)において、「食品の安全性について」というテーマで、微生物専門の川崎晋先生より講話をいただきました。

今国民の不安をあおっている食の問題について、偽装問題や使いまわしなどのモラルの問題がある一方で、科学(サイエンス)の観点から捉えた食中毒の現状報告がありました。

食中毒の原因としては①細菌によるもの、②ウイルス性によるもの

◇行方市消費者友の会 総会・視察研修会を開催

総会・視察研修会を開催



の、③化学性によるものと3点があげられ、細菌による食中毒を防ぐには「増やさない・付けない・殺す」をキーワードに、

①食べ物やカビたものを放置しない。②手を洗う。きれいなまな板で料理する。③熱をかけて殺す。を心がけることが重要であるとのことでした。

また、黄色ブドウ球菌はどこにでもいて傷のあるところに入るため「手・指に傷があるときは食べ物を作ってはダメ。」「100℃の熱でも毒素は消えない。」「特におむすび、サンドイッチ作りは要注意。」と話されました。

「増やさない・付けない・殺す」を合言葉に、食の安全に心がけることを確認し、研修会を終了しました。

◇行方市観光協会設立

5月9日、玉造公民館において行方市観光協会の設立総会が開催されました。

行方市が誕生し、間もなく3年になろうとしています。行方市は、西に霞ヶ浦、東に北浦を臨み、肥沃な行方台地を舞台に、豊かな自然と歴史文化を有しています。これら豊かな観光資源を有効に活用し、観光産業発展と広く情報発信することにより、市の一体化を醸成するため行方市観光協会が設立されました。



◇横須賀ふるさとコミュニティセンター

完成

このほど、手賀地区に「横須賀ふるさとコミュニティセンター」が完成し竣工式が行われました。式では、関係者の方々に地元食材を生かした料理が振舞われたほか、横新連の皆さんによる手賀祇園囃子も披露され賑やかな式典となりました。

近年、地域のコミュニティがこれまで以上に大切と言われています。完成したセンターは地域の基点として、伝統文化の伝承や新たな絆づくりに活用されます。

◇茨城うまいもんどころ味クラブ・茨城果実研究会産地研修会

6月4日、茨城うまいもんどころ味クラブと茨城果実研究会が産地研修会を行い、農協並びに生産者との交流を図りました。

一行は、はじめに麻生地区一元集荷所に到着し、開会式が行われ坂本市長から歓迎の挨拶がありました。

その後、農協職員から一元集荷所内を案内され、集荷されている甘藷について説明を受けました。



※麻生地区一元集荷所隣にある甘藷の畑では、行方の土質が甘藷栽培に適しているなどの説明がされました。



生産者との交流では、吉川地区の「葉しょうが」と小貫地区の「水菜・わさび菜・チンゲンサイ」を栽培しているハウスを訪れ、生産者と熱心に意見交換を行っていました。

参加者からは、「産地の圃場や、出荷システム等に直接触れる機会は少ないので、大変勉強になりました。今後の業務に生かしたいと思います。」との感想の声がありました。



みんなのまちづくり② ～高校生の力をまちづくりに～

6月14日（土）、高校生の意見をまちづくりに活かそうと、昨年度完成した「水辺サイクルネットワーク」活用のためのモニタリング調査を行いました。

麻生高校生徒会のメンバー14名が参加し、天王崎サイクルステーション（以下CS）から玉造CSまでの往復30kmのコースを実際に走行しました。

高校生からは、「景色がよかった」「観光をかねて楽しめる」「トイレや休憩所がほしい」などコースに関するもののほか、「サイクルリングと白帆の湯の入浴券をセット販売してはいかがか」など、今後の活用に向けた積極的な意見が出されました。

市では、今後も市民の力をまちづくりに活かすための取り組みを進めていきます。



往復 30kmのコースを快走

◇小学校陸上記録会



5月28日、北浦第一グラウンドにおいて、小学校親善陸上記録会が行われました。

当日は、多くの保護者の皆さんも応援に訪れ、行方市内の小学校18校から参加した選手たちにより白熱した競技が繰り広げられました。



◇地域の環境保全 ・美化活動紹介

底辺拡張を目指す花生産組合

母の日にプレゼントしたあのカーネーション（鉢物）は元気にしていますか？。美しいカーネーションをもらったおかあさんはとても喜んでくれたことと思います。が、花が落ちた後の鉢は、管理が良く出来ないためおもうように花が咲かない方も多いのでは。

今回の、地域の環境保全・美化活動紹介は、行方市花生産組合長をしている沖洲地区の井野芳昭さんです。花組合は5月の母の日に市観光物産館「こいこい」でカーネーション鉢花等を販売しましたが、その鉢ひとつひとつに「花を長く楽しむために：」や生産者名を記しました。これは、「花を長く楽しめた」という声を聞きたいという理由で始め、「花に興味を持つってもらう底辺を少しずつ拡張したいため」と井野さん。買うときはいいが、元気が無くなったらすぐに処分するのではなく、工夫して物を大切にする意識を高めていければ：という花組合長の環境保全意識が感じられます。

今後は、市の催事やイベント等でアピールしていこうと考えているそうです。申し込み、問い合わせ先は市環境課（☎029-11351211）となります。

花を長く楽しむためのワンポイントアドバイス

カーネーション・来年も花を咲かせるためには、花が終わったら地際より5cmで切り、夏を越します。さらに、9月頃同様に5cmで切り戻して植え替え、冬は最低5℃程度のところで越します。（来年の母の日のために育ててみませんか・・）

ラベンダー・日当たりの良い南側の軒下などで育て、花が終わったら半分ぐらいの長さに切り戻します。秋になったら大きな鉢に植え替え、あまり雨の当たらない軒下（西か東側）で冬を越します。

※水やりは、土の表面が乾いたら鉢の底から水が出るくらい与え、肥料も適度に・・・。



井野さん宅で毎年咲き続ける草花たち